

トヨタ、サーバ・ソリューション社との協業により、使用済み車載電池のリサイクル網を全米に拡大

- 成長するバッテリーEV 市場を支援するため、車載用電池の回収・保管・試験・処理を対象に、Cirba Solutions 社との契約を締結
- 同社との協業により、トヨタ・レクサス車の使用済み車載用電池の輸送・物流に係るコストを 70%削減し、輸送由来の CO2 排出量も削減する見込み
- また、使用済み電池から、最大 95%の重要鉱物の抽出を目指す

トヨタの北米統括会社である Toyota Motor North America, Inc.(以下、TMNA) は、カーボン・ニュートラルの目標達成に向けた取り組みの一環として循環型のバッテリー・エコシステムを構築という共通のビジョンに向けて、電池リサイクル企業である Cirba Solutions 社(サーバ・ソリューション社。以下、Cirba 社)との協業を本日発表し、電池のリサイクル網を全米に拡大していきます。

本契約により、トヨタは Cirba 社の協力のもと、ハイブリッド車(HEV)、プラグインハイブリッド車(PHEV)、電気自動車(BEV)等の電動車の使用済み電池回収のための最適な物流網を構築し、電池リサイクル網を拡大します。

TMNA の事業開発担当のグループ・バイス・プレジデントであるクリス・ヤングは、「Cirba 社の持つ大規模なネットワークにより、トヨタは、使用済み電池の回収とリサイクルの取り組みを全米に拡大し、物流コストと CO2 排出量を削減することが可能になります。本協業を通じ、車載用電池の持続可能で、循環型のバッテリー・エコシステムを構築するという最終目標に近づきました」と語りました。

北米最大の電池リサイクル企業である Cirba 社は、豊富な経験を有し、米国全土に回収・リサイクルのネットワークを持っています。トヨタと Cirba 社

の協業は、中西部及び東海岸地域からの使用済みの車載用リチウムイオン電池の収集・輸送・解体・処理を対象としており、これら使用済み電池は、オハイオ州ランカスターにある同社の施設で処理されます。同施設は、最近、米国超党派インフラ法の一環として、エネルギー省から 8,200 万ドル以上の助成金を受けており、先端技術を駆使し、スクラップや使用済み電池から最大 95%の重要鉱物を抽出し、再利用されることを見込んでいます。

Cirba 社のチーフ・コマーシャル・オフィサーであるジェイ・ワゴは「トヨタとの協業は、持続可能で、循環型のバッテリー・サプライチェーンを構築するという同社の長期ビジョンに共感したことで実現しました。電動車の幅広いラインナップを有するトヨタのビジョン達成に向けサポートできることを誇りに思っています」と、述べています。

トヨタは現在、ハイブリッド車に搭載しているニッケル水素電池を中心に、年間 2 万 5 千個の使用済みの車載用電池を、販売店網から回収しており、今後、販売するバッテリーEV の増加に伴い、特に使用済みリチウムイオン電池の数が増加すると見込んでいます。Cirba 社との協業を通じ、トヨタは 2022 年のデータに基づき、使用済み電池の回収・リサイクルにかかる平均走行距離を、1,251 マイルから 582 マイルに減らし、輸送・物流コストを少なくとも 70%削減できると見えています。シンシナティ地域のように、リサイクル分野での新たな協業により、回収・リサイクルの活動に関わる総走行距離を約 94%削減できる場合があります。更に、こうした回収・リサイクルに要する走行距離を短縮することにより、輸送関連の CO2 排出量も大幅に削減できるとみています。

以 上